

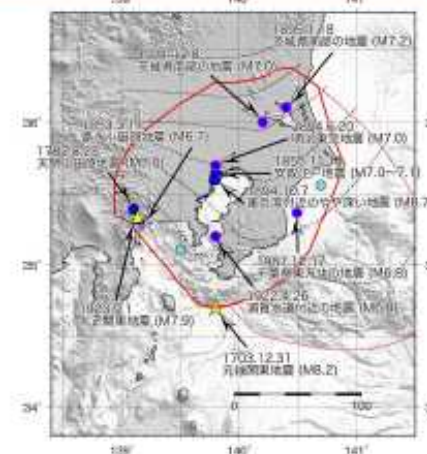
相模トラフ沿いの地震活動の長期評価（第二版） プレートの沈み込みに伴うM7程度の地震

相模トラフ沿いで次に発生する地震

・相模トラフで次に発生するプレートの沈み込みに伴うM7程度の地震の発生確率

- ・プレートの沈み込みに伴うM7程度の地震は、評価対象領域内のどこかで発生するものとして評価
- ・元禄関東地震(1703年)と大正関東地震(1923年)の間の220年間でみると、平均して27.5年に1回の頻度でM7程度の地震が発生していることから、これを平均発生間隔として地震発生確率を評価

評価対象領域



発生確率		
領域	規模	30年発生確率
プレートの沈み込みに伴うM7程度の地震	M7程度 (M6.7~M7.3)	70%程度

※浅い地殻内の地震については評価に含めていない。

プレートの沈み込みに伴うM7程度の地震の特徴

- ・元禄関東地震(1703年)と大正関東地震(1923年)の間の220年間でみると、地震活動は前半は比較的静穏で、後半に活発、また、大正関東地震(1923年)以降現在に至る90年間でみると、静穏な期間が継続
⇒ 今後、次の関東地震の発生に向かって、地震活動が活発になる可能性
- ・1894~1895年にかけて3回、1921~1922年にかけて2回の地震が発生
⇒ 短期間に連続して発生する場合がある

